

加賀国府 関連遺跡の 発掘



調査地の空中写真（北西から）

古府シマ遺跡は小松市の北部にある古府台地（通称舟見丘）の裾部に展開する遺跡で、東に接する台地上には、石部神社があります。同社は古くは「得橋郷国府村府南山鎮座」と記録され、社の北方に加賀の国府が所在したと推定されています。小字の「タチ」は、遺跡北方にある水田の呼び名で、その関連が推測されています。

遺跡は昭和 57（1982）年の県営圃場整備事業に先立つ分布調査で、その範囲がほぼ確定しています。今回、梯川の築堤工事にかかり初めて発掘調査を実施したところ、神社寄りの段丘上から、

11～15世紀の掘立柱建物や井戸が多数発見されました。建物の柱穴は、柱を抜き取ったとみられるものが多く、建替えが繰り返されたことを示しています。こうした所見と歴史的な環境から、国府に関連した遺跡ではないかと考えられます。



発掘の風景



H30 発掘調査

ふるみや いせき はくさんし
古宮遺跡 [白山市]

白山市^{しらやま}白山町の河岸段丘上に広がる古代～中世の遺跡で、文明12(1480)年まで白山本宮^{しらやまひめ}(白山比咩神社の前身)が所在しました。

調査は一般県道手取川自転車道線改築事業に伴うもので、平安時代後期～室町時代後期まで最大5層の遺構面を確認しました。敷地の北部を区画する石列の南方には、礎石建物、石畳状の敷石遺構に加え、飛び石状や石段状の遺構、数回の火災痕跡などを確認しました。各整地層からは、素焼きの皿「カワラケ」を中心に、青磁花瓶や白磁の椀皿、瀬戸焼の瓶子、加賀焼、珠洲焼、越前焼のすり鉢や甕、砥石や鉄釘の工具、銅銭など、豊富な遺物が多く出土しました。

今回確認した遺構は「白山本宮」の建物や施設とみられ、文献史料から知られる火災や洪水など、災害のたびに繰り返された社殿の再建を具体的に裏付けるものです。



遺跡の空中写真 (北西から)



調査区の空中写真 (垂直)



礎石建物と石畳状の敷石遺構 (第4面 西から)



敷地を区画する石列と配石状遺構 (第3面 北から)



礎石建物 (第4面 西から)



大量のカワラケ出土 (第2面 南から)

H30 発掘調査

 ひとつはり いせき こまつし
 一針C遺跡 [小松市]

一針C遺跡は、^{かはしがわ}梯川右岸に立地しています。平成25年度からの梯川改修築堤工事等に伴う調査で、弥生時代～中世にかけての複合遺跡であることが明らかとなりました。

平成30年度の調査区は、旧堤防の直下にあたることから、耕作等による削平が少なく、新堤防が敷設された過年度の調査区と比べ、中世の遺構面が約30cmも高いことを確認しました。また、中世遺構面の下に堆積する厚い包含層^{ほうがんそう}を除去すると、弥生時代後期～古墳時代の遺構面が広がり、下流部では包含層の中間に古代の遺構面も確認したことにより、上・中・下層の三面の遺構調査を行いました。

上層では中世の掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}と井戸を備えた宅地を確認、中層では古代の掘立柱建物などを発掘、下層では弥生時代後期～古墳時代の平地式建物や溝などを検出したことから、一帯が居住地として長期にわたって断続的に利用されたことが確認できました。

なかでも上層では2基の井戸が切り合う事例が多く、限られた敷地内で造り替えながら、生活用水を得ていた様子がみられました。井戸を廃棄する際には、「井戸鎮め^{いどしずめ}」と考えられる儀礼を行い、丁寧に埋められた井戸がある一方、不要となった石塔^{せきとう}や石材などを投げ入れて、埋め込みされた井戸もありました。



調査地の全体写真（西から）



中世の井戸（東から）



中世の井戸から出土した石塔（東から）



古代の掘立柱建物（西から）



弥生時代～古墳時代の遺構（垂直）

H30 発掘調査

ゆみなみ いせき かがし
弓波遺跡 [加賀市]

弓波遺跡は、加賀市北部に位置する江沼低地の中央付近にあり、西から北東に流れる八日市川と南からの尾俣川が合流する地点に広がります。

北陸新幹線建設に伴う平成28年度の大規模調査で、弥生時代～中世の集落や墳墓を確認しました。今回は関連工事に係る小規模な調査であったが、掘立柱建物や土坑、弥生時代後期の平地建物を囲む溝、布掘溝をもつ掘立柱建物などの遺構を多く検出しました。

遺物は弥生土器や古墳時代の土師器・須恵器を中心に、奈良・平安時代の土師器や須恵器、中世の珠洲焼や越前焼に加えて、碧玉の荒割材など古墳時代の玉作りに関連する石製品も出土しました。これにより、本遺跡の各所で玉作りが行われていた可能性が高まりました。また、直弧文という古墳時代の器物に用いられた、直線と弧線を組み合わせた文様が描かれた土器も出土しました。



遺跡の空中写真（南西から）



調査区1の全景（南から）



布掘溝をもつ掘立柱建物（南西から）



調査区2の全景と掘立柱建物（北から）



直弧文が描かれた古墳時代の土器



調査区3の全景（南から）

H30 古代体験

古代体験ミニ講座『鉄器づくり』

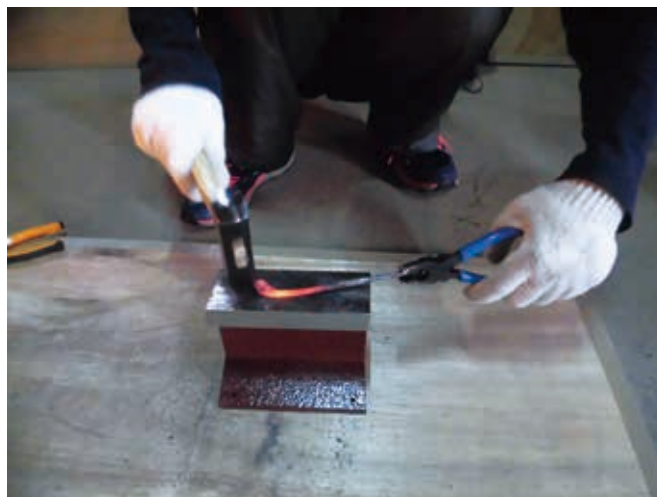
平成31年3月10日(日)にミニ講座『鉄器づくり』を古代体験ひろばの復元住居で行い、親子18名の参加がありました。講座では、最初に鉄の歴史と国内における鉄器の使用が弥生時代に始まり、県内では小松市の八日市地方遺跡、七尾市の奥原峠遺跡などで、当時の鉄器が出土していることを説明したうえで、鉄器の製作体験として、熱した鉄釘を打ち鍛えてペーパーナイフをつくりました。

体験方法ですが、まず七輪に炭火を用意し、そこに五寸釘を入れます。釘が十分赤くなったことを確認してから釘を炭火から取り出し、金床に置いてハンマーで叩きます。すると、叩いたところが少しずつ薄くなり、ペーパーナイフの刃の部分をつくりだすことができます。刃の部分ができあがると、熱した釘を水に入れて(焼き入れ)、鉄の強度を高めま^す。最後に刃の部分を研いで完成です。

最初は、炭火から取り出すタイミングが早かったり、釘をうまくハンマーで叩けず、釘が冷めてしまったりしていましたが、無事に作品を完成させることができると、体験者の方々は一様に達成感を感じているようでした。また、できあがった作品で紙を試し切りして、その切れ味に驚き、「鉄は熱いうちに打て」の意味がよくわかった、などの感想が聞かれました。



古代の復元住居で体験



釘が冷めないうちに叩きます



刃の部分を砥石で研ぎます



ペーパーナイフの完成！

発掘報告会 『いしかわを掘る』

平成 31 年 3 月 3 日（日）、石川県立美術館ホールで、県内各地で発掘調査が実施された 6 遺跡を取り上げ、調査担当者が最新の調査成果をわかりやすく紹介しました。毎年楽しみに参加してくださる方も多い行事で、200 名の方々が熱心に耳を傾けました。

白山市横江古屋敷遺跡は弥生時代後期から古墳時代初頭の集落で、^{よこえふるやしき} 竪穴建物、^{たてあなたても} 平地式建物、^{ほうけいしゅうこうぼ} 方形周溝墓などが確認され、河の跡から多くの土器が出土した様子が報告されました。金沢市観法寺ジンヤマ窯跡・^{かんぼうじ} 観法寺ヤツタ遺跡からは、県内でも数少ない古墳時代終わり頃の瓦や須恵器を焼いた窯が見つかり、質問も出るなど関心が高い報告となりました。野々市市末松廃寺^{すえまつはいじ}跡は、平成 26 年から続く史跡の再整備事業に伴う調査で、8 世紀中頃に再建された中門柱穴が確認されました。また^{ほつす} 弘子を手にした女子像が線刻された、^{がとう} 瓦塔の一部とみられる土製品にも注目が集まっていました。羽咋市酒井バンドウマエ遺跡は縄文時代終わり頃から中世にいたる集落で、近くの山地から土砂が流れ込むにもかかわらず、各時代の建物などから「そこに暮らす人々の知恵が感じられた」などの感想が寄せられました。金沢市千田北遺跡は参加者からの注目度が高く、^{ひつぎ} 鎌倉時代の棺として^{まげもの} 曲物が使われたこと、^{そうぎょうしんぞう} 僧形神像が出土したことなど、全国的にも初例となる報告に「感心した」「驚いた」「もっと調査してほしい」などの声がありました。最後の金沢城跡では、江戸時代の庭園の中での石垣のあり方が報告され、「石垣の説明がわかりやすかった、興味深かった」との感想が聞かれました。講師の方々の資料が充実しており後日の学習に役立つ、との嬉しい声も聞かれ、充実した報告会となりました。



横江古屋敷遺跡の報告をする下濱 聡氏



末松廃寺跡の報告をする田村昌宏氏



会場の様子



金沢城跡の報告をする西田郁乃氏

R1 古代体験

ゴールデンウィーク『^{てがた}手形・^{あしがた}足形づくり』

平成31年4月27日（土）～令和元年5月6日（月）に未就学児対象の『手形・足形づくり』を開催しました。子どもの成長記録にと毎年参加されるご家族のほか、初めて体験される方も多く、10日間で1,027枚の手形・足形ができました。

体験方法は、まず円く整えた粘土版^{ねんどばん}をつくり、手や足を直接のせて形をつけます。そのあと、紐^{ひも}とおすための穴をあけ、縄や貝などを使い文様をつけて完成です。モデルは、東北地方や北海道で出土している縄文時代の「手形・足形付土版」で、青森県のおおいしだい^{おおいしだい}ら遺跡^{どほん}で出土した土版は、全長約7cmの手形と足形で、その大きさから乳児のものとして報告されています。

作品は、当センターの電気窯で焼き上げ、6月15日（土）から展示・引き渡しを行いました。



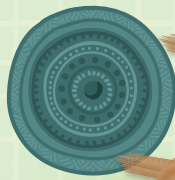
足形に挑戦 思わず力が入ります



じょうずにできたよ



手形・足形の展示状況（1,027枚が並んだ！）



まいぶん日誌

平成31年 令和元年
3月～6月



3月

古代のはたおり体験
高機の準備です……



この時期限定の
色・いろ・まが玉づくりだよ



どこにあるかな



発掘体験
土器は見つかったかな？



慎重に織ります

みんなで作ると楽しいね
削って、磨いて、
形を整えましょう

4月

入館者数
30万人達成!



これからも
よろしくお願いします



縄文人は
どんな生活を
してたかな？



本物の土器を
使って説明します

体験工房の前で
みんなで記念写真

ハイ!
チーズ!!



埋文センターに見学に
来てくれました

30万人達成の
記念品です。



やったね!
ついた!

火起こし
大成功!



出前考古学教室・
火起こし体験

縄文土器づくり
ていねいに模様を
つけていきます



子どもも大人も
真剣です

青森県からの視察です
当センターはどうですか？



5月

当たる
かな～?



ミニチュア
弓矢体験

縄文人になりきって
獲物をつかまえよう

弥生土器
づくり



初めての挑戦です

縄文土器の
野焼き



いい天気
しっかり焼けました

6月